



Meito 1年進路だより

2025/01/09

No.06

名古屋市立名東高等学校進路部



2025年…… 中心的な存在として名東高校をリードしていこう

新しい年を迎えました。本年もよろしくお願いします。

2025年は、みなさんが名東高校の中心となってリードしていく年になります。分かりやすいのは、部活動でしょうか。多くの部活動では1学期に3年生が引退し、新2年生のみなさんが活動の主体となるはずです。新入生も入ってきますので、後輩への指導という新しい仕事も加わってきます。

また、生徒会活動でもさまざまな場面で、中心となってそれぞれの役割を担っていくことになると思います。名東高校をしっかりと盛り上げていってください。



3年生の先輩たちの姿を追い、受験をイメージしよう

名東高校では学年ごと教室のフロアが異なりますし、2学期終業式や3学期始業式も教室で配信を見る形式なので、3年生の今の雰囲気を感じる機会がないかもしれません。北棟2階や4階の廊下に設置されている学習スペースは、今も毎朝満席です。7時から勉強を始めるのが日課の人たちもいます。真冬の寒さを物ともしない集中力で、見ているこちらにも気が引き締まります。学校開放の図書館をフル活用している人たちもいます。いずれにしても、3年生はみな入試本番を直前に控え、緊張感が高まる中で頑張っています。そうした姿の一端に触れ、2年後の自分に置き換えてもらえたらと思います。

入試のスタートは毎月18日(土)・19日(日)に行われる『大学入学共通テスト』です。会場は名東高校です。名東高校が会場の1つになっていることで、名東生は自分の学校で受験ができるという大きなアドバンテージを持っています。(名東高校会場は、他にも複数の学校が割り当てられています。彼らは慣れない名東高校で受験しなければならないのです。)

翌日の20日(月)には自己採点結果を河合塾、駿台・ベネッセに送り、志望校の可否判定リサーチにかけます。全国から集められたデータをもとに、各予備校は22日(水)に結果を発表します。その結果に照らして、国公立大学入試や私立大学の共テ利用方式入試への出願先を検討します。そのため正確に自己採点ができていないと、正しく受験戦略が立てられません。

大学入試センターは、共通テストの得点調整^(※)の有無を24日(金)に発表します。平均点等の情報は、中間発表が22日(水)、最終発表が2月6日(木)です。みなさんもこうした情報をしっかりキャッチしてください。ちなみに、国公立大学入試への出願は、前期・中期・後期いずれも2月5日(水)までです。

(※選択科目間で、問題の難易度による得点差が認められる場合、得点調整が行われます。)

2月1日(土)頃から私立大学の一般選抜入試が始まります。受験する大学の校数など、一人一人異なります。地元の大学しか受験しない人、東京方面や関西方面へ泊を伴う受験をする人、これも人それぞれです。県外の大学を名古屋会場で受験する人もいます。国公立大学に絞って私立大学を受験しない人もいます。出願はこの冬休みあたりから始まっています。出願手続きは、受験者情報のネット登録、受験料の払い込み、関係書類の送付等、すべて受験生本人が行います。模試締め切りに遅れると、一切受け付けてもらえません。

国公立大学の一般選抜入試は、前期日程が2月25日(火)から行われます。卒業式(3月3日(月))をはさんで、中期日程は3月8日(土)から、後期日程は3月12日(水)から行われます。共通テストの問題や名古屋大学などの有名大学の入試問題は、解答もあわせて新聞やネットに即日公表されます。是非とも確認してみてください。

共通テストについては、教室掲示等で案内した『共通テストチャレンジ』等に参加を予定している人もいますが、そうでない人も実際に問題を解いてみてください。数学ⅠAなど授業で既に習った科目もあります。是非とも本番の入試問題を体感してほしいと思います。



大学入試までの流れを知ろう！

大学入試までの流れと、その時期の先輩たちの学習状況などをあわせて把握し、より具体的に自分が受験生になったときの動きをイメージしよう。また、**今できる！**の欄については、今のうちから積極的に取り組んでいこう。

時期	流れ・先輩たちの学習状況など	今できる！・補足情報など
1年生	3学期～1学期 2学期の「教科登録」に向けて、入試のしくみを理解し、気になる大学・学部研究を進めたという先輩が多いようです。学習面では、定期考査に向けた学習はしっかりこなしていました。それが3年生の受験勉強につながったようです。	今できる！ ・授業を中心に、「予習→授業→復習」のサイクルをつくろう！ ・3月は高校入試に伴う家庭学習日や春休みなど、自宅学習の時間が増えます。1年生で学習した内容を見直し（とくに英語・数学・国語）、苦手分野を克服しよう！ ・平日でも学年+1時間以上の学習時間の確保を目指そう！
2年生	夏休み オープンキャンパスに参加（7～8月） 夏季講座（7～8月） 夏休みは、苦手克服のチャンスの時期。文化祭準備で忙しいけれど、先輩たちは、徹底的に復習を行い、基礎力の完成を目指しました。	・3年生の夏休みは受験勉強で忙しいので、2年生の夏休みこそいろいろな大学のオープンキャンパスや大学説明会、高大連携講座に参加しよう！ ・学校の夏季講座を受講して、弱点を補強しよう。
2年生	2学期 実力考査（9月上旬）、名東祭（9月中旬） 修学旅行（10月下旬） 全統高2模試（10月下旬）：記述式 教科登録（11月下旬） 2年生の秋は、文化祭・修学旅行で忙しいけれど、将来も見すえた「教科登録」の時期。先生や保護者、先輩にも相談しながら、決めた先輩が多いようです。	・修学旅行前後の全統高2模試や「教科登録」をきっかけにして、そろそろ受験を意識した勉強をはじめよう！ ・「教科登録」後も、“不要な教科・科目”はありません。理系の生徒も国語、文系の生徒も数学をしっかり勉強して、逆にライバルに差をつける得点源にしよう！
2年生	3学期 全統共テ高2模試（1月下旬）：マーク式 受験まであと1年という時期。改めて気になる大学・学部研究をすすめたという先輩が多いようです。	・2年生の3学期は3年0学期。 1・2年生で学習した内容を見直し（特に英語・数学・国語）、苦手分野を克服しよう！
3年生	1学期 #1 共通テスト模試+記述模試（5月） 入学者選抜要項発表（6月） 3年進級。部活動も引退の時期。1・2年生とは異なる学習環境が始まります。よいスタートが切れるよう、学校の授業を中心に毎日学習する習慣を身につけていました。	・5月に行われる模試から既卒生も参加してきます。はじめはなかなかよい判定は出ませんが、本格的な受験勉強は始まったばかり。 志望校をあきらめず、 努力を重ねよう！ ・基礎固めをしっかりと！



文理選択のメリットを活かそう！

冒頭でも述べたように、2年生は学校をリードしていく存在です。では、学習面はどうでしょうか。

英語・数学・国語では、より難易度の高いことを学びますし、理科や社会で入試に直結する科目の学習が始まります。さらに、現3年生からは教科「情報」も入試科目となり、名東高校では2年生で学習します。学習面でも、これまで以上に努力を重ねることが求められます。

ところで、みなさんは11月に文理選択の本登録を済ませましたが、その後の学習で教科・科目を取捨選択したりしていませんか？理系だからといって文系科目を、文系だからといって理系科目を軽んじていたりしていませんか？もしそのような気持ちでいるとしたら、たいへん大きな間違いです。

本校のカリキュラム設計では、主に2年生までに学ぶ英語、数学ⅠAⅡBC、国語、歴総、公共、物理基礎、生物基礎、化学基礎、情報Ⅰ、体育、保健、芸術Ⅰ、家庭基礎は共通です。そこに、普通科理系は数学ⅢC・基礎なし理科が、普通科文系は国語・地歴公民が加えられています。国際英語科では英語が専門科目として厚くなっています。共通科目に、+理系科目、+文系科目、+国際英語科科目で、文理選択のメリットを最大限活かそう。

さて、3年生になると受験勉強で忙しくなります。2年生のうちに興味・関心のある大学・学部を調べ、オープンキャンパスや研究室公開などのイベントに参加したいものです。

そう考えると、2年生はとても忙しいと思いませんか。だからこそ、学校の授業を大事にし、毎日コツコツ勉強するという当たり前のことを続けてほしいと思います。そうすることで、みなさんの可能性が広がっていきます。

大学入学共通テスト～今年は1月18日(土)・19日(日) 全国一斉に実施される日本最大規模の試験～

「大学入学共通テスト」は各大学が独立行政法人「大学入試センター」と共同で実施する試験です。国公立大学の一般選抜受験者は、原則共通テストを受験しなければなりません。また、多くの私立大学でも共通テストの成績を利用する「共通テスト利用方式」を設定しています。大学進学を考える受験生にとって、この共通テスト対策は必須と言っても過言ではありません。

1日目

教科	出題科目	試験時間	配点
地理 歴史	6科目から 最大2科目選択 「地理総合、地理探究」 「歴史総合、日本史探究」 「歴史総合、世界史探究」	1科目 60分 2科目 130分 (解答時間 120分)	1科目 100点 2科目 200点
	「地理総合、歴史総合、公共」 「公共、倫理」 「公共、政治・経済」		
公民			
国語	「国語」	90分	200点 現 110 古 45 漢 45
外国語	「英語」 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	英語リーディング、 その他外国語 80分	200点
		英語リスニング 60分 (解答時間 30分)	英語は R 100 L 100

2日目

教科	出題科目	試験時間	配点
理科	5科目から 最大2科目選択 「物理基礎、化学基礎、 生物基礎、地学基礎」 ※いずれか2科目の内容を 選択解答 「物理」「化学」 「生物」「地学」	1科目 60分 2科目 130分 (解答時間 120分)	1科目 100点 2科目 200点
数学	1科目選択 「数学Ⅰ、数学A」 「数学Ⅰ」	70分	100点
	「数学Ⅱ、 数学B、数学C」 ※数学B、数学Cは各2項目 出題のうち3項目選択	70分	100点
情報	「情報Ⅰ」	60分	100点

大学・学部・学科の知識を深めよう！

みなさんは、11月に文理選択を終えました。これから取り組んでいくべきことは、自分の興味・関心を具体化させ、それらにアプローチできる進学先を検討していくことです。そのためには、自分の興味・関心についての知識・教養を広げていくことに加えて、大学・学部・学科に関する知識を深めていくことも大切です。みなさんの進路志望は一人一人異なりますので、それぞれが意識をもって自ら考えていく必要があります。その際に、考え方や調べ方などわからないことや迷うことがあれば、担任の先生や進路室の先生に相談してください。

国公立大と私立大、その違いは？

2学期期末考査の最終日、名古屋市立大学入試説明会を開催しました。1・2年生を対象としたものでしたが、名市大のすべての学部の先生が来校され、72名の生徒が参加しました。前半は各学部の先生から学部の概要と入試についての説明を受けました。後半は学部・学科ごとに分かれ、分散会を開きました。参加した生徒は、自分の志望する学部の先生からさらに詳しいお話を聞き、積極的に質問をしていました。生徒にとっても、大学の先生と直接対話できる、貴重な機会となったのではないかと思います。

さて、名古屋市立大学は公立大学ですが、国公立大学と私立大学の違いについて、みなさんはどれくらい知っているでしょうか？

■国公立大学の特徴

- 世界の第一線での研究
- 研究資金（科研費）が豊富
- 高い大学院進学率
- 少人数教育
- 学費が安い
- 就職支援も充実し始めた



など

■私立大学の特徴

- 独自性が高い（建学の精神）
- 多様な学部が設置（とくに文系）
- 有名教授がいる（大学もある）
- 就職支援の取り組み
- 資格対策講座の設置
- 充実した奨学金制度

など

国公立大と私立大の違いというと、入試科目の負担や学費の面ばかりが目立ちますが、その他にも教育面において大きな違いがあります。「令和5年度学校基本調査」によれば、教員1人あたりの学生数は、国立大学では9.5人、公立大学では11.4人に対して、私立大学では19.6人です。国公立大学では、少ない学生数に対して多くの教員が配置されています。また、研究者による「科学研究費助成事業」の採択数は、国立大学が51%、公立大学が8%に対して、私立大学は30%です。配分額では、国立大学が60%、公立大学が6%に対して、私立大学は21%になります。大学数は国立大学が86校、公立大学が100校ほど、私立大学が620校ほどですから、採択数、配分額ともに国立大学の占有率が高いことがわかります。

11月の第2回進路希望調査の結果を見ると、8割以上の人が国公立大学を第1希望に挙げていますが、その多くは名古屋大、名古屋工業大、愛知教育大、名古屋市立大、愛知県立大といった地元の大学に集中しています。

しかし、全国を見渡せば、各都道府県にその地域に根差した「教育」「研究」「社会貢献」に取り組み、世界からも注目を集める個性的な教育・研究を行っている国公立大学があります。

前述のように、国立大学には教育面や研究面ですぐれた環境があります。特に地方においては、その地域で学術・文化・教育・医療・産業の中心として機能しています。そのため、学問系統に実学の分野が多い傾向にあります。「大学で学んだことを実社会で活かし地域貢献していきたい」と考える人にとって、地方国立大学は非常に魅力的です。

実際、そうしたところで活躍している先輩たちもたくさんいます。ぜひ広い視野をもって学びたい大学、そして研究したい学問を探してください。